

## 臨床研究

手関節レントゲンをを用いた手関節冠状断アライメント評価に関する因子の検討

### 研究の背景・目的

橈骨遠位端骨折は高齢者の上肢骨折の中で頻度が高い外傷の一つである。骨折型や整復後の安定性などの条件に応じて、観血的治療や保存的治療を選択されるが、転位骨片の整復が不良な場合には、疼痛や可動域制限だけでなく、腫脹や拘縮などの合併症を惹起する。骨折の整復には正確な画像による厳密な評価が必須である。しかし、手関節を構成する橈骨や尺骨、手根骨などの位置関係は撮影時の肢位や体位の影響を受けやすく、手関節の関節面を評価できる正確な正面、側面像が取得し難い。本邦の橈骨遠位端骨折診療ガイドライン [1] の中でも手関節の各計測には基準撮影法による標準的画像を用いることが前提とされている。しかし実際には患者の性別や年齢により個々に手関節の形状が異なっている。このため、基準撮影法を用いても正確な正面像や側面像を取得し難く、骨形態的因子に関しては検討が不十分であり、不明な点が多い。

本研究の目的は手関節レントゲンをを用いて手関節冠状断アライメント評価に関する因子を検討することです。

### 対象・方法

当院で 2021.1.1～2022.12.31 間に手関節レントゲンを施行した患者様のカルテを参照し、背景データおよびレントゲン所見を調査します。調査及び解析は東千葉メディカルセンター内で行います。

### 研究機関名

施設：東千葉メディカルセンター

### 個人情報に関する手続き

本研究で行われる検査は通常診療で行われているものです。本研究により、直接的に患者様に不利益を与えることはありません。また個人情報を厳重に管理する体制等を整備し、公表時には個人情報の漏洩がないように行います。データ等は、東千葉メディカルセンターの鍵のかかる棚で保管します。なお、本調査への参加を希望されない場合には、情報を用いることは致しませんので、以下の担当者まで御連絡をお願い致します。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいてHPに掲載しています。

### 問い合わせ担当者

東千葉メディカルセンター 放射線部 大和田 明梨

TEL 0475-50-1199